

# 平成26年度 見附市生活科部 活動報告

部長 中林 圭子

## 1 研究主題

「気づきの質を高める体験活動と表現活動」

～充実した表現活動につながる体験活動を求めて～

## 2 研究の実際

○5月 2日（金） 本年度の計画作成

○8月22日（金） 実技講習会 会場：大平森林公園 講師：自然観察指導員 佐藤久敬様

『遊びに行こうよ～自然に親しもう』

I部：資料を使用して、自然と親しむ機会の重要性についての講話

「新潟日報新聞記事：もっと川へ出かけよう」「講師記録写真：見附の自然ギフチョウ、ハッチョウトンボ、ヤマボウシ等」「森林に行く時の諸注意」「草花で遊ぼう」

II部：フィールドワーク「大平森林公園のため池周辺の散策」

樹木について説明を聞いた。様々な形の葉について採ってきた葉で葉脈写しの活動を行った。

III部：ネイチャークラフト

木切れ、木の実、枝など身近な素材をボンドで接着し、小さな飾りを作った。

## 3 成果と課題

・子どもの五感を生かした活動を行おうとする場合、教師自身が自然を楽しむことが大切である。今回は、新潟小学校の近くの大平森林公園での活動なので、小学校の子どもの様子を思い浮かべながら校外学習の場合を想定して教材研究が行えた。講話も屋外休憩所で、鳥のさえずりや魚の水音など聞きながら心おだやかに拝聴することができた。



・気づきの質を高めるには、繰り返しフィールドに出て気付いたことを付箋にメモするなど継続的に観察したことを蓄積していくことが必要である。季節の変化を知るためにも、春夏秋冬の自然マップのようなものがあると便利だと感じた。

・クラフトは図工と合科扱いとし、様々な素材と組み合わせることで子どもの思いに答えられる。人工物的な素材の使用も更なる創作活動につながる。



・川へ出かける新聞記事より「危険から



子どもを遠ざけるかそれとも、安全に付き合う方法を教えるか」は現在の多忙な日常から豊かさを子どもへ伝えるために必要だと感じた。その機会を設定するためには、手助けしてくれる人材が必要である。学校行事とも関連付け、教育課程の中で位置づけられることが望ましい。

